

令和2年度 教育課程研究集会

中学校 技術・家庭 家庭分野

奈良県教育委員会事務局
学校教育課 辰巳理恵子

1 新学習指導要領全面実施に向けて

- (1) 移行期間最終年度の実践課題
- (2) 3年間を見通した指導計画の作成
- (3) 指導計画の作成と内容の取扱い

2 学習評価について

- (1) 学習評価とは
- (2) 学習評価について
- (3) 中学校技術・家庭科（家庭分野）における内容の
まとめり
- (4) 家庭分野における「内容のまとめりごとの評価規準」
作成の手順
- (5) 「『内容のまとめりごとの評価規準（例）』を
具体化した例」作成の手順
- (6) 学習活動に即した題材の評価規準の具体化

1 新学習指導要領全面実施に向けて

(1) 移行期間最終年度の実践課題

① 3学年間を見通した指導計画の作成

- ・ A(1)ア (ガイダンス、**生活の営みに係る見方・考え方**、家族・家庭の基本的な機能、A、B、Cと関連を図る)
- ・ **他教科等との関連**

② 育成する資質・能力の明確化

- ・ **小・中学校の系統性**

③ 新しい内容を踏まえた題材の開発

④ 資質・能力の育成に向けた授業づくり

- ・ 問題解決的な学習 (**学習過程**)
- ・ **主体的・対話的で深い学び**の視点からの授業改善 (ICTの活用)
- ・ 実践的・体験的な学習活動の充実 (科学的な理解)

⑤ 家庭、地域との連携

⑥ 指導と評価の一体化

(2) 3年間を見通した指導計画の作成

①家庭分野で育てたい生徒の姿の明確化

②3年間の指導の流れを考えた題材の配列

- ・「A 家族・家庭生活」(1)のA 自分の成長と家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働
 - 第1学年の最初に履修
 - 家族・家庭の基礎的な機能とAからCまでの各内容との関連
- ・「A 家族・家庭生活」(4)、「B 衣食住の生活」(7)、「C 消費生活・環境」(3)の「生活の課題と実践」
 - 三つの項目のうち、一つ以上を選択し履修
 - 他の内容と関連を図り、課題を設定

③新しい内容等の確認

- ・高齢者など地域の人々との協働、介護など高齢者との関わり方
- ・蒸す調理
- ・和食（だしを用いた煮物又は汁物）、和服など、日本の伝統的な生活
- ・衣服等の再利用の方法
- ・自然災害に備えた住空間の整え方
- ・物資・サービスや消費者被害
- ・クレジットなどの三者間契約（成年年齢の引き下げ） など

(2) 3年間を見通した指導計画の作成

④指導内容の関連を図った題材を構成

- ・「B衣食住の生活」(6)「住居の機能と安全な住まい方」の
ア及びイ
→内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び(3)との関連
- ・「C消費生活・環境」(1)及び(2)
→内容の「A家族・家庭生活」又は「B衣食住の生活」
の学習との関連

⑤各題材に適切な時間を配分

⑥指導すべき内容に漏れがないかを確認

(3) 指導計画の作成と内容の取扱い 「A 家族・家庭生活」

(1) 自分の成長と家族・家庭生活

■ ガイダンス

■ 生活の営みに係る見方・考え方

- ・ 協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承、持続可能な社会の構築等を視点に考える。

(3) 家族・家庭や地域との関わり

■ ア（ア）：家族関係をよりよくする方法

■ ア（イ）：高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法

- ・ 高齢者など地域の人々と協働する必要があることを理解する
- ・ 高齢者の身体の特徴（視力・聴力・筋力の低下など）
- ・ 高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動

（立ち上がりや歩行などの介助の方法）

→常に介護が必要な人を対象とはしていない（高校の学習内容との違い）

→必ずしも高齢者が相手でなくてよい。

（例）生徒がペアを組み、立ち上がりや歩行などの介助

高齢者の介護の専門家などから介助の仕方についての話を聞くなど

→他教科等の学習との関連を図る

(3) 指導計画の作成と内容の取扱い 「B 衣食住の生活」

(3) 日常食の調理と地域の食文化

■ア（ウ）：加熱調理（煮る、焼く、蒸す等）

- ・「蒸す」＝蓋をしめて水蒸気での加熱を扱う（電子レンジでの蒸すではない）
- ・ゆでる、いためる、焼く、煮ると比較して、「蒸す」とはどのような加熱調理なのかその特徴をつかむ
- ・加熱調理の原理・原則を学ぶ（「揚げる」以外の加熱調理を扱う）

※「蒸す」：水を沸騰させて水蒸気を発生させ、その中で食品を加熱する調理

- ①水蒸気が充満した状態で100℃の加熱
（まんじゅう、団子、蒸しパン、いも類、魚介類、肉類など）
- ②蒸し器の蓋をずらして蒸気量を減らし、温度を低めに保つ
（茶碗蒸し、カスタードプディング、卵豆腐）
- ③100℃を保ちながら、ふり水やきりをふく
（こわ飯、もち米）

※特徴：

- ・食品が動かないので型崩れしない。
- ・流動性のものを型に入れて加熱できる。
（蒸しパンやプディング等）
- ・水がなくならなければ、焦げない。
- ・蒸している途中で味付けはできない。

(3) 指導計画の作成と内容の取扱い 「B 衣食住の生活」

(3) 日常食の調理と地域の食文化

■ア（エ）：地域の食材を用いた和食の調理

- ・「だし」と「地域又は季節の食材を用いた煮物又は汁物」
- ・だしを使った煮物又は汁物は必ず取り組む

（例）だしを使った地域又は季節の野菜の煮物

だしを使った汁物

(4) 衣服の選択と手入れ（日本の伝統的な衣服である和服）

■ア（ア）：衣服と社会生活との関わり

- ・日本の伝統的な衣服である和服に触れる。
- ・和服の基本的な着装を扱うこともできる。

→「できる」規定

(3) 指導計画の作成と内容の取扱い 「B 衣食住の生活」

(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作

■衣服等の再利用の方法

- ・衣服等の再利用の方法についても触れる
- ・環境に配慮して、衣服等の再利用や布を無駄なく使う工夫
→必ず衣服等を再利用するということではない
→布の無駄のない使い方を考える

(例) A (2) と B (5) との関連 = 「幼児の生活を豊かにする物の製作」
C (2) との関連 = 「環境に配慮した生活を工夫するための物の製作」

(6) 住居の機能と安全な住まい方

■ア (イ) : 自然災害に備えた住空間の整え方

- ・自然災害の備えを明確にした

(例) 家庭における危険箇所の確認、住居の安全計画MAP
災害マニュアルの作成

(3) 指導計画の作成と内容の取扱い 「C 消費生活・環境」

(1) 金銭の管理と購入

■ア（ア）：計画的な金銭管理の必要性

- ・クレジットによる三者間契約
- ・「〇〇費」「▲▲費」等、細かく費目は扱わない。

■ア（イ）：売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応

- ・売買契約の仕組み、三者間契約の理解
 - 小学校：「買物の仕組み」＝「売買契約の基礎」
 - 中学校：「売買契約の仕組み」
- ・消費者被害の背景とその対応
 - クーリング・オフ制度に触れる。
 - 消費生活センターなどの各種相談機関との連携

(3) 指導計画の作成と内容の取扱い「生活の課題と実践」

A (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

■ A (1) から A (3) の学習を基礎とする

■ 課題を設定家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見だし、生徒の興味・関心等に応じて「B衣食住の生活」や「C消費生活・環境」の内容と関連させて課題を設定

(例) A (2) と B (3) との関連＝「幼児のための間食」

A (2) と B (5) との関連＝「幼児の遊び道具」

A (3) と C (1) (2) との関連＝「地域の行事等で中学生ができること」

B (7) 衣食住の生活についての課題と実践

■ B (1) から B (6) の学習を基礎とする。

■ 食生活、衣生活、住生活の中から問題を見だし、生徒の興味・関心等に応じて「A家族・家庭生活」や「C消費生活・環境」の内容と関連させて課題を設定

(例) B (3) と C (2) との関連＝「環境に配慮した調理」

B (5) と A (2) との関連＝「衣服を再利用した幼児の生活の役立つ物などの製作」

B (6) と A (2) との関連＝「幼児や高齢者が安全で快適に生活するための実践計画」

C (3) 消費生活・環境についての課題と実践

■ C (1) から C (2) の学習を基礎とする

■ 自分や家族の消費生活の中から問題を見だし、生徒の興味・関心等に応じて「A家族・家庭生活」や「B衣食住の生活」の内容と関連させて課題を設定

(例) C (1) と A (3) との関連＝「家電製品の購入計画」

C (2) と B (3) との関連＝「食品の購入や調理の後始末など環境に配慮すること」

2 学習評価について

(1) 学習評価とは

■ 学習評価

- ・学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの。
- ・各教科等の評価においては、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」が学習指導要領に定める「目標に準拠した評価」として実施するものとされている。

■ 観点別学習状況の評価

- ・学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のこと。
- ・児童生徒がそれぞれの教科での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とするもの。
- ・各学校において「目標に準拠した観点別学習状況の評価」を行うためには、「観点ごとの評価規準」を定める必要がある。

■ 評価規準

- ・観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したもの。
- ・児童生徒が学習を通して身に付ける資質・能力の状況を、学習評価を行うまとまりごとに、学習内容に基づいて表したものである。

(2) 学習評価について

■「内容のまとめり」

- ・各教科において、学習指導要領に示す「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの。
- ・内容のまとめりごとの評価規準を作成する際の単位となるもの。

■「内容のまとめりごとの評価規準」

- ・「2 内容」の記載事項の文末を、「～すること」から「～している」と変換したもの。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、時間をかけて育成されるものであるという趣旨等により「2 内容」に記載がない。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、各学年の目標を参考にしつつ、必要に応じて観点の趣旨を用いながら「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する必要がある。

(3) 中学校技術・家庭科（家庭分野）における内容のまとめ

- 「A 家族・家庭生活」(1) 自分の成長と家族・家庭生活
- 「A 家族・家庭生活」(2) 幼児の生活と家族
- 「A 家族・家庭生活」(3) 家族・家庭や地域との関わり
- 「A 家族・家庭生活」(4) 家族・家庭生活についての課題と実践
- 「B 衣食住の生活」(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- 「B 衣食住の生活」(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- 「B 衣食住の生活」(3) 日常食の調理と地域の食文化
- 「B 衣食住の生活」(4) 衣服の選択と手入れ
- 「B 衣食住の生活」(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- 「B 衣食住の生活」(6) 住居の機能と安全な住まい方
- 「B 衣食住の生活」(7) 衣食住の生活についての課題と実践
- 「C 消費生活・環境」(1) 金銭の管理と購入
- 「C 消費生活・環境」(2) 消費者の権利と責任
- 「C 消費生活・環境」(3) 消費生活・環境についての課題と実践

(4) 家庭分野における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順①

例:「B 衣食住の生活」の(4)衣服の選択と手入れ

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。

(イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。

イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。

赤字…知識及び技能に関する内容

青字…思考力、判断力、表現力等に関する内容

※「A家族・家庭生活」の(1)「自分の成長と家族・家庭生活」及び(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」、「B衣食住の生活」の(7)「衣食住の生活についての課題と実践」、「C消費生活・環境」の(3)「消費生活・環境についての課題と実践」は、指導事項アのみで構成されている。A(1)の評価の観点については、「知識・技能」、A(4)、B(7)、C(3)の評価の観点については、家庭や地域などで実践を行い、課題を解決する力を養うことから、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」であることに留意する。

(4) 家庭分野における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順②

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の「知識・技能」のポイント

- 「知識・技能」については、基本的には当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を、「～について理解している」、「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。
- 「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成する。

例:「B 衣食住の生活」の(4)衣服の選択と手入れ

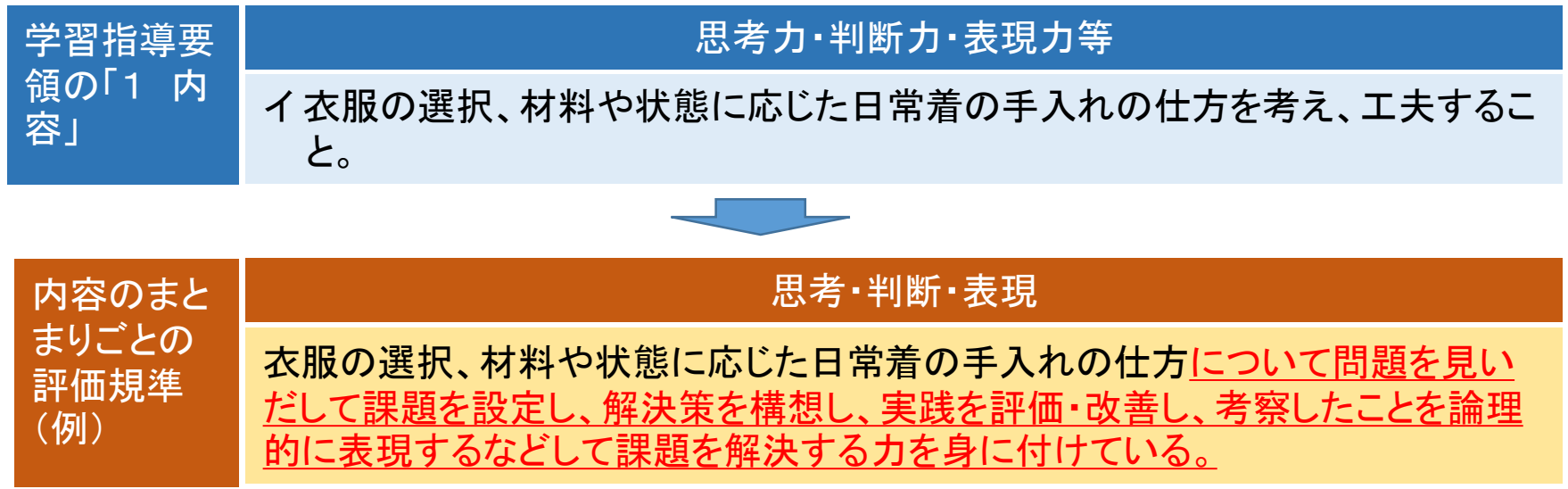
学習指導要領の「1 内容」	知識及び技能
内容のまとめりごとの評価規準 (例)	<p data-bbox="407 753 1238 796">ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p data-bbox="407 805 1841 896">(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。</p> <p data-bbox="407 905 1852 999">(イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。</p> <p data-bbox="865 1025 1066 1068">↓</p> <p data-bbox="1033 1090 1230 1133">知識・技能</p> <ul data-bbox="407 1168 1852 1362" style="list-style-type: none">・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。

(4) 家庭分野における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順③

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の「思考・判断・表現」のポイント

■「思考・判断・表現」については、教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているかを評価することになる。基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項イについて、その文末を分野の評価の観点の趣旨に基づき、「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。

例:「B 衣食住の生活」の(4)衣服の選択と手入れ

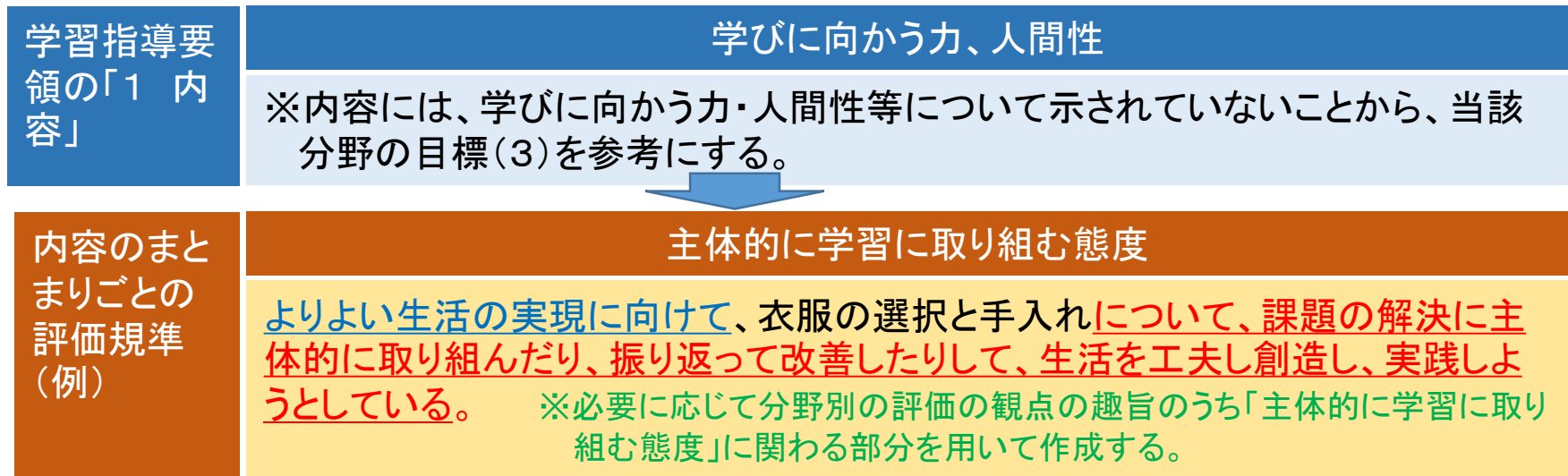


(4) 家庭分野における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順④

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には、当該指導項目で扱う指導事項ア及びイと分野の目標、分野別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成する。その際、対象とする指導内容は、指導項目の名称を用いて示すこととする。具体的には、①粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)、②自らの学習の調整(①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面)に加え、③実践しようとする態度を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成する。

例:「B 衣食住の生活」の(4)衣服の選択と手入れ



(5) 「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」作成の手順①-1

「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」を作成する際の「知識・技能」のポイント

- 「知識・技能」については、「内容のまとめりごとの評価規準」の作成において述べたように、その文末を、「～について理解している」、「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。
- 「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成する。

(5) 「『内容のまとめごとの評価規準(例)』を具体化した例」作成の手順①-2

「内容のまとめごとの評価規準(例)」を具体化した例を作成する際の「知識・技能」のポイント

例:「B 衣食住の生活」の(4)衣服の選択と手入れ

学習指導要領の「1 内容」

知識及び技能

- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。
 - (イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。

内容のまとめごとの評価規準(例)

知識・技能

- ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。
- ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。

内容のまとめごとの評価規準(例)を具体化した例

知識・技能

- ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。
- ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。

(5) 「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」作成の手順②-1

「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」を作成する際の「思考・判断・表現」のポイント

- 「思考・判断・表現」については、基本的には、「内容のまとめりごとの評価規準」の作成において述べたように、教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、各題材において、次に示す四つの評価規準設定し、評価することが考えられる。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要がある。
- 具体的には、以下のように評価規準を設定することができる。
 - ①家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見だして課題を設定している」
 - ②解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について(実践に向けた計画を)考え、工夫している」
 - ③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
 - ④計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを論理的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している」

(5) 「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」作成の手順②-2

「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」を作成する際の「**思考・判断・表現**」のポイント

例:「B 衣食住の生活」の(4)衣服の選択と手入れ

学習指導要領の「1 内容」

思考力・判断力・表現力等

イ衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。

内容のまとめりごとの評価規準(例)

思考・判断・表現

衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

内容のまとめりごとの評価規準(例)を具体化した例

思考・判断・表現

- ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定している。
- ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について考え、工夫している。
- ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について実践を評価したり、改善したりしている。
- ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。

(5) 「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」作成の手順③-1

「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」を作成する際の「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

■「主体的に学習に取り組む態度」については、「思考・判断・表現」と同様に、基本的には、「内容のまとめりごとの評価規準(例)」の作成において述べたように、各題材の学習過程において、**三つの側面から評価規準を設定し、評価することが考えられる。**ただし、これらの評価規準は、**各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要がある。**

■具体的には、以下のように評価規準を設定することができる。

- ①粘り強さについては、その文末を「～について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている」
- ②自らの学習の調整については、その文末を「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」
- ③実践しようとする態度については、その文末を「～について工夫し創造し、実践しようとしている」

(5) 「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」作成の手順③-2

「『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例」を作成する際の「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

例:「B 衣食住の生活」の(4)衣服の選択と手入れ

学習指導要領の「1 内容」

学びに向かう力、人間性

※内容には、学びに向かう力・人間性等について示されていないことから、当該分野の目標(3)を参考にする。

内容のまとめりごとの評価規準(例)

主体的に学習に取り組む態度

よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

内容のまとめりごとの評価規準(例)を具体化した例

主体的に学習に取り組む態度

- ・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
- ・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
- ・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について工夫し創造し、実践しようとしている。

(6) 学習活動に即した題材の評価規準の具体化

題材：「健康・快適で持続可能な衣生活」(第2学年)

指導項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B(4)	「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化した例		
B(5)	「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化した例		

B(5)も同様に具体化する。



指導項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用について理解している。 ・衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性について理解している。 ・衣服の材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・快適で持続可能な衣生活を送るために、衣服の選択、日常着の手入れ、衣服等の再利用などについて問題を見だして課題を設定している。 ・衣服の選択について問題を見だして課題を設定している。 ・材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方について問題を見だして課題を設定している。 ・衣服の選択について考、工夫している。 ・材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・よりよい衣生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について工夫し創造し、実践しようとしている。

(6) 学習活動に即した題材の評価規準の具体化

指導項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B(4)		<ul style="list-style-type: none">・ <u>衣服の選択について、実践を評価したり、改善したりしている。</u>・ <u>材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。</u>・ <u>材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</u>	
B(5)	<ul style="list-style-type: none">・ <u>製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、製作が適切にできる。</u>・ <u>用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。</u>	<ul style="list-style-type: none">・ <u>自分や家族の衣服等の再利用について問題を見いだして課題を設定している。</u>・ <u>衣服等の再利用の製作計画について考え、工夫している。</u>・ <u>衣服等を再利用した製作について、実践を評価したり、改善したりしている。</u>・ <u>健康・快適で持続可能な衣生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</u>	<ul style="list-style-type: none">・ <u>衣服等の再利用の製作計画や製作について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</u>・ <u>衣服等の再利用の製作計画や製作について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</u>・ <u>よりよい衣生活の実現に向けて、衣服等の再利用の製作計画や製作について工夫し創造し、実践しようとしている。</u>